

重点戦略課題③

北国らしいゆたかな暮らしの実現

市民生活の姿

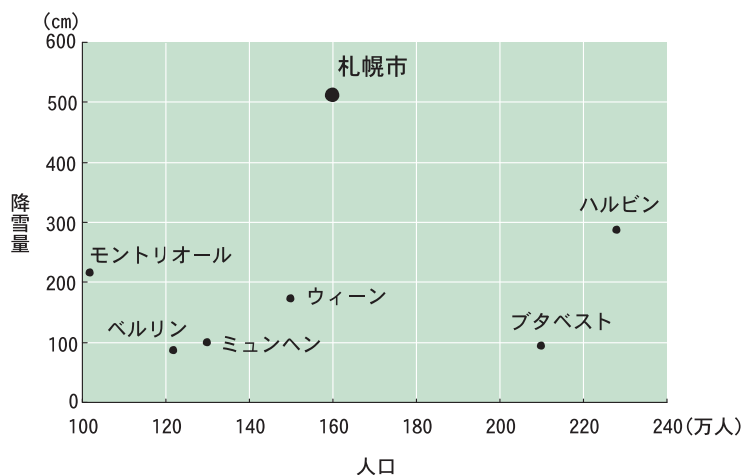
さわやかで快適な夏がある一方で、多雪・寒冷の厳しい冬がある札幌では、省エネルギーにも配慮した、安心・安全な生活と北方圏の拠点都市の特性を活かした冬の魅力を楽しむ暮らしの文化が形成されています。

現状と課題

多雪・寒冷の拠点都市

札幌市は、さわやかで快適な夏がある一方で、冬期間の降雪量が5mを超え、最低気温が氷点下となる日が年間130日余りもあるなど、世界でも屈指の多雪・寒冷の大都市です。このような特性は、スキーや雪まつりなど個性的な市民文化をはぐくみ、美しい自然景観や貴重な水源などのゆたかな恵みをもたらす一方で、冬の暖房などに必要な多大なエネルギー消費や、市民生活を支える雪対策といった課題を都市に与えてきました。今後は、このような特性や課題を踏まえて、北国らしい生活をさらに充実する必要があります。

●世界の主な北方都市の人口と降雪量

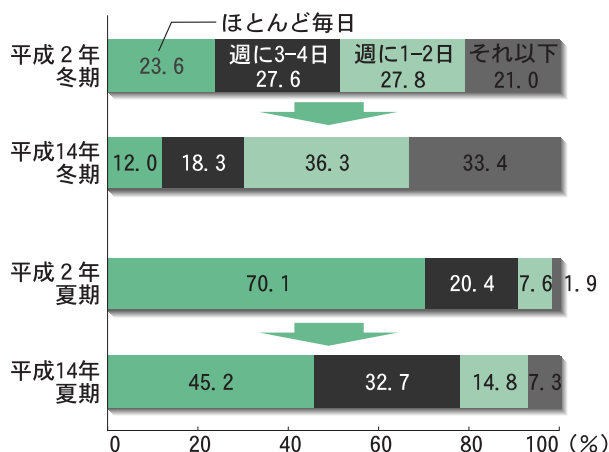


注:人口、降雪量ともに昭和63年のアンケート調査時の数値である。
〈資料〉北方都市市長会「各都市の降雪に関するアンケート集計表」

雪に親しむ暮らしの状況

近年、子どもたちが戸外で遊ぶ機会が減っており、それは特に冬期間に顕著になっています。また、スキーなどのウィンタースポーツについても全体的に低迷が続いています。冬の遊びやスポーツは、健康づくりや仲間づくりなどを通じて冬の暮らしをゆたかにする大きな市民文化であることから、今後とも活性化していく必要があります。

●戸外遊びの頻度



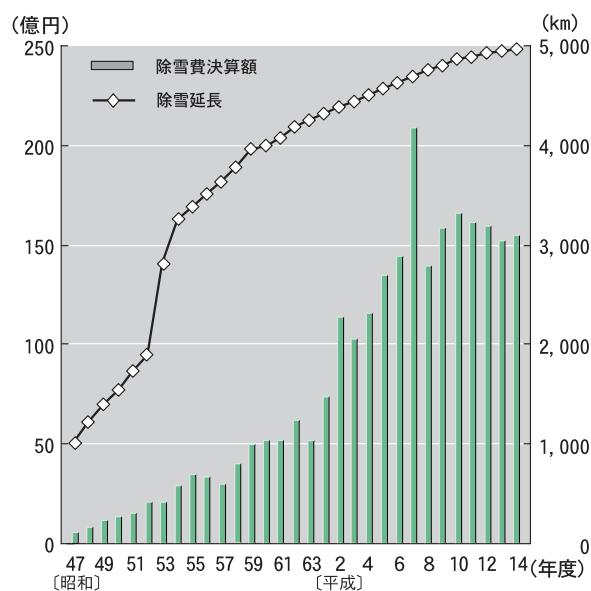
注:平成2年のデータは、札幌市の調査によるものである。
〈資料〉北海道開発局「小学生の冬期公園利用意識の変化 (寒冷地技術シンポジウム2002)」

除雪に対する市民要望と協働の取り組み

除雪については、昭和53年度以降連続して市民要望の1位を占めるなど、冬の生活の大きな課題となっています。一方で、除雪にかかる経費については、除雪が必要な距離が年々延長することなどから、増加傾向をたどっており、厳しさを増す財政状況のもとで、多様な市民ニーズに応えるためにも、市民・企業・行政の役割分担を明確にした雪対策を進める必要があります。

また、今後は、除雪だけではなく、上手に雪を活用する取り組みも進めていく必要があります。

●除雪費と除雪延長の推移



〈資料〉札幌市

各主体の主な役割

市民

- 冬の遊びやスポーツ、イベントの実践
- 北国ならではのライフスタイルや生活文化の育成
- 協働による雪対策への参加 など

企業等

- 協働による雪対策への参加
- 北国・雪国にふさわしい技術や製品の開発 など

町内会・NPO等

- 冬の遊びやスポーツ活動の推進や普及啓発
- 協働による雪対策への参加
- 四季を通して楽しみ活動できる暮らしの文化の育成 など

行政

- 冬の遊びやスポーツ活動、イベントに対する支援
- 雪など自然エネルギーの活用
- 効果的・効率的な雪対策の推進 など



施策と事業

施策の基本方針

冬の遊びやスポーツをはじめ市民が雪に親しみ、楽しむ機会を大切にしながら、一年を通して市民が快適に生活できる、北国らしい暮らしを創造するとともに、雪を貴重な資源という視点で見つめ直し、上手に活用する取り組みを進めます。

冬の暮らしを支える雪対策については、市民・企業・行政が連携しあいながら、地域特性に応じて効果的・効率的に進めます。

重点戦略課題③

北国らしい ゆたかな暮らしの実現

施策 1 北国らしい暮らしの創造

施策 2 ウィンタースポーツの活性化

施策 3 多雪・寒冷な気候特性の積極的な活用

施策 4 地域特性に応じた効果的・効率的な雪対策の推進

施策 1 北国らしい暮らしの創造

今あるさまざまな施設を活用して冬場の公園利用を拡充する環境を整えるとともに、地域の冬の遊びを促進する市民活動や指導者を発掘、活用するなど冬の遊びを活発にします。また、北方圏の都市などとの国際的な交流を通じて、快適な北国の暮らしづくりの知識や技術を共有し、活かしあう取り組みを進めます。

事業名	事業内容	事業費	備考
冬の生活文化情報発信事業	北国である札幌特有の冬のライフスタイルや生活文化に関心を持てるような情報を提供するために、ホームページや広報による情報発信を行います。	10百万円	
冬の公園利用活性化事業	冬の公園利用を活性化するために、雪を利用した遊具の設置など地域住民が主体となった冬の公園利用のきっかけづくりや、冬季の屋外活動を支援する指導員の養成などを実施します。	—	

事業名	事業内容	事業費	備考
世界冬の都市市長会議事業	気候・風土の似ている世界の冬の都市とのネットワークを構築するとともに、市長会議等への参加により共通する冬の課題についての知識や経験を学び、その成果をまちづくりに活用します。	22百万円	
世界冬の都市市長会共同事業	世界冬の都市市長会の活動を活性化する取り組みの一つとして、世界旅行博での共同観光PRなど、会員都市の共同による事業を実施します。	9百万円	
「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担【再掲】	姉妹都市ミュンヘン市の年中行事であるクリスマス市を、ホワイトイルミネーションの実施に合わせて大通公園で開催し、ミュンヘンの文化を身近に感じる冬の集客交流イベントとして推進します。	36百万円	

施策 2 ウィンタースポーツの活性化

札幌ならではの特性を活かして、自然と親しむスポーツ活動を推進するとともに、ウィンタースポーツを重点スポーツとして位置づけ、調査・研究を進めます。さらに、「2007ノルディックスキー世界選手権大会」を市民ぐるみで盛り立てるなど、ウィンタースポーツへの関心を高め活性化するための取り組みを進めます。

事業名	事業内容	事業費	備考
2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会の開催	平成19年（2007年）に札幌で開催するFISノルディックスキー世界選手権大会に向けて白旗山競技場および宮の森ジャンプ競技場の整備を行うとともに、準備・開催経費に対して補助を行います。	5,384百万円	●本大会 19年2月22日～3月4日
ウィンタースポーツフェスタ in 大倉山	大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用し、子どもを中心に市民や観光客が集う冬の屋外スポーツ・レクリエーションの場として、市民と協働で展開するとともに観光資源として札幌をPRします。	5百万円	

事業名	事業内容	事業費	備考
ウィンタースポーツ 振興事業	ウィンタースポーツの活性化を図るため、地域の取り組み状況などの調査を行うとともに、身近にウィンタースポーツに親しむことができるよう、地域レベルでの活動を推進します。	3百万円	

施策 3 多雪・寒冷な気候特性の積極的な活用

雪の冷熱エネルギーの活用についての実験など、省エネルギーに配慮し、雪を貴重な資源として見直す取り組みを進めるとともに、既に国際的なイベントに成長している雪まつりなど、市民が楽しむ冬を国内外に発信して集客交流を促進します。

事業名	事業内容	事業費	備考
都心北融雪槽活用 雪冷熱エネルギー 利用実証運転事業 【再掲】	都心北融雪槽を活用した雪冷熱エネルギー利用システムの実証運転を実施するとともに、実用化に向けた課題の整理などを進めていきます。	13百万円	
ウィンタースポーツ フェスタ in 大倉山 【再掲】	大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用し、子どもを中心に市民や観光客が集う冬の屋外スポーツ・レクリエーションの場として、市民と協働で展開するとともに観光資源として札幌をPRします。	5百万円	

施策 4 地域特性に応じた効果的・効率的な雪対策の推進

都市の生活を支える主要な道路の除排雪を計画的に行い渋滞緩和を図るとともに、歩行者の多い公共施設周辺の歩道や通学路などの歩行環境の改善を図ります。

雪対策を進めるに当たっては、生活に身近な道路などについて、パートナーシップ¹²排雪や市民・企業の雪対策活動への支援を充実し、福祉除雪の推進を図るなど、市民・企業・行政の協働による取り組みをさらに充実します。

事業名	事業内容	事業費	備考
歩道の凍結路面对策による歩行環境の改善	冬期における歩行環境を向上させるために、公共施設周辺の歩道の凍結防止剤散布の強化や散布専用車の充実を図るとともに、歩行者専用砂箱を順次設置していきます。	177百万円	
地域に密着した雪処理の推進	パートナーシップによる冬期生活環境の充実を図るため、市民・企業・行政のそれぞれが役割を分担し連携しながら生活道路の排雪を進めるとともに、下水道を活用した地域密着型の融雪槽を整備します。	512百万円	
福祉除雪事業【再掲】	高齢者や障がいのある人が冬期間も安心して暮らせるよう、地域住民や企業等と協働して間口除雪などのサービスを行います。	266百万円	

成果指標

	現状値	目標値
冬期間の来客数（11～3月の観光客数）	431万人 (H14)	490万人 (H18)
ウインタースポーツ（冬季ジャンプ大会）の観客数	5.3万人 (H14)	6万人 (H18)
市民の協力による歩道への滑り止め材の散布	36% (H14)	50% (H18)
市民とのパートナーシップによる除排雪	1,026件 (H14)	1,100件 (H18)

¹² パートナーシップ 共同で何かを行うための、対等な協力関係のこと。